

問題用紙

【コース共通】

国士舘大学大学院 経営学研究科 修士課程 経営学専攻 専門科目

《 令和5（2023）年度 第I期 入試問題 （100点満点） 》

試験時間 令和4年9月17日 10:00～11:00

[注意事項]

1. 以下の問題1～問題14は、【コース共通問題】です。問題1～問題14のうち、1題を選択して解答してください。
(※) 修士論文研究コース志願者で、経営組織論を第1志望専修科目とする志願者は問題8を解答してください。
2. 答案用紙には、まず志望コース名、受験番号と氏名を記入し、次に問題番号欄に問題番号1～14のうち選択した番号を1つ書いてから解答してください。
3. 答案用紙に2題以上解答が記入されていた場合、採点されませんので注意してください。
4. 参考書・辞書の持込はできません。
5. 問題用紙は、答案用紙とともに回収します。
6. その他、試験開始前の注意事項をよく聞いてください。

問題 1 次の3つの小問題それぞれについて解答しなさい。(100点)

解答にあたっては、はじめに、問題文中の数字(①、②)を記入した上で、それぞれについて記述しなさい。なお、①、②は、この順番通りに、それぞれ段落を分けて(改行して)記述すること。

- (1) 国の経済成長におけるスタートアップ(新興企業)の重要性が指摘されている。その中でもアントレプレナーにけん引されグローバルに事業活動を展開する急成長企業の存在が注目を集めている。このことについて、①急成長企業が経済成長に果たす役割(貢献)を主に2つの側面から説明するとともに、②急成長企業を先導する主体であるアントレプレナー(イノベータ)に求められる能力(5つの力)について論述しなさい。
- (2) 事業創造には、魅力的な事業機会の発見が求められるが、それが顧客の求める製品・サービス(ニーズ)と適合していなければ事業化は達成できない。この事業機会の評価方法について、①リーン・スタートアップの手法に基づいて説明するとともに、②対象となる顧客を特定するための手法であるエンパシー・マップ(共感図)の概要とその効果について論述しなさい。
- (3) スタートアップ(新興企業)の企業成長は、いくつかのステージに分けることができる。そこで、まず①企業の成長ステージを提示するとともに、それを類型化し理解することの重要性を説明しなさい。その上で、②スタートアップが成長する困難性について3つのメタファー(暗喩)を用いて説明するとともに、それぞれを克服するための手法について論述しなさい。

問題 2 次の3つの小問題それぞれについて解答しなさい。

- (1) 次の(ア)から(オ)の5つの中から2つを選択して、それぞれを説明しなさい。
(各20点)

- (ア) データ・情報・知識
- (イ) 電子商取引
- (ウ) サプライチェーン
- (エ) プロジェクトと定常業務
- (オ) グループウェア

- (2) 企業活動における情報化投資を経営戦略の視点で説明しなさい。(30点)

- (3) 企業が情報システムに関するアウトソーシングを行うことのメリットとデメリットを述べなさい。(30点)

問題 3 [非公開]

問題 4 次の3つの小問題から2つを選んで解答しなさい。(100点)

- (1) 戦後の日本的経営の特徴の1つである「メインバンク（・システム）」について説明せよ。次に、「メインバンク（・システム）」が日本の経済成長や企業成長にどのような役割を果たしたかについて説明しなさい。
- (2) 戦後の日本的経営の特徴の1つである「株式の相互持合いと企業集団の形成」について説明せよ。次に、「株式の相互持合いと企業集団の形成」が日本の経済成長や企業成長にどのような役割を果たしたかについて説明しなさい。
- (3) 戦後の日本的経営の特徴の1つである労使関係、即ち、「終身雇用制、企業別労働組合、年功序列型賃金」について説明せよ。次に、その労使関係が日本の経済成長や企業成長にどのような役割を果たしたかについて説明しなさい。

問題 5 次の4つの小問題それぞれについて解答しなさい。(100点)

- (1) Dunning が提唱した OLI パラダイムによって示された多国籍企業が持つ、3つの優位性が何であるかを具体的に説明しなさい。
- (2) プロダクトサイクル理論の内容を説明した後に、プロダクトサイクル理論が当てはまる具体例を詳細に説明しなさい。
- (3) 国際製品別事業部制と地域事業部制をそれぞれ具体的に説明しなさい。
- (4) I-R フレームワークでは、〇〇統合と××適用の度合いから、多国籍企業の経営を分析する。〇〇と××とは何か回答したのちに、多国籍企業の〇〇統合と××適用の度合いの差異が、経営方針にどのような違いをもたらすのかを説明しなさい。

問題 6 次の2つの小問題それぞれについて解答しなさい。(100点)

- (1) T 型フォードという自動車は現代の工場生産の原型になった自動車だといわれている。その理由について記述しなさい。
- (2) トヨタ自動車の経営の特徴について簡単に説明しなさい。

問題 7 次の3つの小問題それぞれについて解答しなさい。

- (1) 「企業の利益（あるいは利益率）」は何によって影響を受けるのか。「ポジショニング・スクール」の考え方に従って説明しなさい。(30点)
- (2) 「多角化の程度（例えば、単一事業、関連型多角化、非関連型多角化）」と「企業の経営成果（成長性、収益性）」との関係について論じなさい。(30点)
- (3) 「環境変化が生じれば、事前に考えた経営戦略は変更を余儀なくされる。そうであるならば、事前に戦略を設定せずに環境変化に対して逐一適合的な行動をとった方が良くとも考えられる」。以上を踏まえたうえで、「事前の経営戦略」が果たす役割について論じなさい。(40点)

問題 8 次の4つの小問題それぞれについて解答しなさい。

- (1) 「動機づけ」とは何か。企業経営の観点からみた動機づけの機能的定義について述べなさい。(15点)
- (2) マズローの欲求段階説について説明しなさい。(15点)
- (3) マズローの欲求段階説は、その後、どのように動機づけの理論に組み込まれたのかについて説明しなさい。(40点)
- (4) (上記の問題と重複しないように) 組織行動に関する専門用語を1つあげて、その意味や内容について詳しく紹介しなさい。(30点)

問題 9 製品ライフサイクルについて次の4つの小問題それぞれについて解答しなさい。

- (1) 製品ライフサイクルの各段階の特徴がよくわかるようにグラフを描きなさい。(16点)
- (2) 製品ライフサイクルの各段階の特徴を説明しなさい。(32点)
- (3) 製品ライフサイクルの各段階に応じたマーケティング・ミックスについて説明しなさい。(32点)
- (4) ロジャースのイノベーション普及理論と製品ライフサイクルの相違について説明し、またこの二つの理論の対応関係について論じなさい。(10点×2)

問題 10 次の2つの小問題それぞれについて解答しなさい。

- (1) 経営学が主な研究対象とする私企業（営利企業）を形態からみると、個別企業形態と結合企業形態に分類することができる。さらに、個別企業形態には、さまざまな種類の「会社企業（会社）」が含まれる。今日、日本に存在している「会社企業（会社）」の形態を列挙して、それぞれについて特徴や違いを説明しなさい。（50点）
- (2) 近年、日本の会社企業経営において、「コーポレート・ガバナンス改革」の重要性が指摘されている。まず、「コーポレート・ガバナンス」とは何かについて理論的に説明し、次にその改革の重要性が指摘されるようになった背景について、近年の具体的な会社企業（会社）の事例（事件や出来事など）を用いて説明しなさい。（50点）

問題 11 次の2つの小問題それぞれについて解答しなさい。（100点）

- (1) 制度上の原価計算の特質について、広義の原価計算との相違にも言及し説明しなさい。
- (2) 活動基準原価計算（Activity-Based-Costing）の意義と有用性について述べなさい。

問題 12 次の2つの小問題それぞれについて解答しなさい。

- (1) 連結財務諸表の意義（作成目的）を説明したうえで、近年、個別財務諸表ではなく連結財務諸表が重視される傾向にある理由を説明しなさい。（50点）
- (2) 連結の範囲の決定方法および連結財務諸表の作成手順について説明しなさい。（50点）

問題 13 次の3つの小問題それぞれについて解答しなさい。（100点）

- (1) 株式評価モデルにおける配当割引モデルとは何か、説明しなさい。また株式価値の算定のために配当割引モデルを用いることの短所を説明しなさい。
- (2) PER（株価収益率）、PBR（株価純資産倍率）とは何か、説明しなさい。
- (3) 株式価値の算定のために株価乗数モデルを用いる長所と短所を説明しなさい。

問題 14 次の2つの小問題それぞれについて解答しなさい。（100点）

- (1) 日本の明治初期における西洋簿記の伝播について、教育と実務のそれぞれの視点から説明しなさい。
- (2) 日本における公認会計士法制定の背景を説明しなさい。なお、計理士法との違いにも言及すること。